



平野朝雄・編著

『カラーアトラス神経病理 第3版』

書評者 久保田紀彦（福井大学脳脊髄神経外科教授）

神経病理の入門書である『神経病理を学ぶ人のために』の姉妹版として1980年に初出版された『カラーアトラス神経病理』の第3版が、第2版から18年ぶりに改訂され、出版された。本書は、著者の平野朝雄教授が「まえがき」で述べておられる如く、実物を本から学び取れるように、すべて美しいカラー写真で統一されている。改めて最初からつぶさにカラー写真を観察し、所見の解説を読むと、まるで私が25年前のMontefiore病院の剖検室に戻ったような錯覚を起こした。

まず、頭蓋骨、硬膜、脳、脊髄表面の肉眼病理所見から観察し、脳と脊髄の断面を観察する。肉眼所見と同じ標本の光学顕微鏡所見を対比しながら読むと、実像が明瞭化し、興味が尽きない。通常、教科書は通読するような構成になっているが、本書は常に異なった頁の関連図を読むように工夫されている。著者が最も強調されている如く、正常構造と異常構造の対比が異常所見を探すのに役立つ。そのため、正常の肉眼および顕微鏡所見を詳細に解説している。さらに、サイズを考慮して病的所見を観察できる工夫がなさ

れており、異常所見がわからない場合には、正常所見と比較しながら観察すると大変わかりやすい。

本書の特徴の1つとして、疾患単位がわかりやすく比較できるように工夫されており、類似所見や正反対の病的所見が一瞥できるように配置されている。また、部位別に疾患が記載されており、病変部位と疾患単位の関連がよくわかる。所見の解説には主要所見は勿論、人工産物と時間的概念が記載されており、所見の奥深さが読み取れる。時間的記載が明確なためか、どの図にも生き生きとした新鮮さがある。すべての生物所見は、ある瞬間を捉えたものであり、その前に何が起こったか、その後に何が起こるのかを想像することが学問の面白さである。特に通常のHE染色での所見には詳細な解説がなされており、僅かな変化も見逃してはならないことを教えている。このような著者の観察力が「平野小体」（図211）の発見をもたらしたのであらうと、今更ながら敬服する。さらに、HE染色に加え、神経病理で使用される特殊染色や免疫組織染色により所見の実体を詳細に解説している。

脳神経外科医は、腫瘍、血管障害、外傷、感染、奇形などの疾患を扱うことが多く、神経変性疾患には興味が薄い傾向にある。このアトラスを手にとると、神経変性疾患にも興味を起こさせる。最近では、認知症や脊髄疾患を扱う機会が増加しており、本書は日常臨床や学生教育の参考資料になる。巻末には、最新の重要病理所見が追加されている。

著者の鋭い観察力と教育者としての比類なき実力が十分に汲み取れる美しいアトラスである。「学問は無味乾燥で、できれば避けて通りたい」と思う怠惰な精神にこのアトラスが学問への興味を呼び戻してくれる。本書は脳脊髄のCT・MR画像診断を日常業務としている医師にとって、病的所見の解明の優れた手ほどきになる。特に、これから神経病理を学ぼうとされる初心者には『神経病理を学ぶ人のために』の姉妹版として、このアトラスの購読をお薦めする。

A4 頁264 2006年 医学書院刊
定価18,900円（本体18,000円＋税5%）
[ISBN4-260-00285-6]

